



令和元年度 全国国立大学附属学校PTA連合会 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

Table of board members including 直前会長 (Ritsuko), 会長 (Shinji), 監事 (Anri, Kenji), 理事 (Akira, Kenji), 顧問 (Keiji, Hiroshi, Takahiro, Nobuyuki, Taro), and 評議員 (Regional representatives).

Table of regional representatives (評議員) for Hokkaido, Tohoku, Kanto, Tohoku, Chubu, Kinki, and Kyushu regions.

Table of school alliance election members (学校連盟選出) including 理事 (Kenji, Ryo, Fumio) and 評議員 (Taro, Kenji, Kenji, Kenji, Kenji).

令和元年度 委員会活動

総務委員会

- 1. 総務全般
2. 法人化に向けた準備 (会則、規則の見直し)
3. 諸会議の設営
4. 作文・絵作文コンクールの実施
5. 地区間交流事業の実施
6. 土曜・放課後活動等助成金事業の実施
7. いじめ対策活動等助成金事業の実施
8. いじめ防止プログラム関係業務
9. 子どもの貧困に関する調査研究と対策の検討 (東京学芸大学との連携)
10. 表彰の企画・運営
11. 文部科学省をはじめとする関係省庁、関係団体との連携
12. 全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会との連携
13. 運営企画会議への参画
14. PTA研修会第10回全国大会への参画
15. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
16. その他

財務委員会

- 1. 会計業務全般
2. 法人化に向けた準備 (会則、規則の見直し)
3. カンガルー保険関係業務
4. 財政教育プログラム関係業務 (財務省との連携)
5. 金融経済教育プログラム関係業務 (金融庁との連携)
6. クラウドファンディング等の調査研究
7. 附属学校の産学連携に関する調査研究
8. 運営企画会議への参画
9. PTA研修会第10回全国大会への参画
10. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
11. その他

広報委員会

- 1. 広報活動全般 (情報収集・情報発信・取材対応)
2. 附属だよりの企画・取材・編集・発行
3. ホームページの企画・運営
4. 絵画コンクールの実施 (主管校: 京都教育大学附属桃山小学校)
5. 作文・絵作文コンクールの実施
6. 特別広報活動 (附属学校に関する戦略的広報活動、SNS等) の企画・運営
7. 運営企画会議への参画
8. PTA研修会第10回全国大会への参画
9. その他

研修委員会

- 1. PTA研修会第10回全国大会の企画・運営
2. 全国大会実行委員会の運営
3. PTA研修会第11回全国大会の企画
4. 国立大学附属学校全国同窓会との連携、大同窓会運営協力
5. 附属学校の産学連携に関する調査研究
6. 附属学校の存在意義を高める教育プログラムの開発
7. 運営企画会議への参画
8. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
9. その他

特別支援委員会

- 1. カンガルーシップ活動助成金事業の企画・実施
2. 特別支援学校に関する調査研究
3. 就労支援キャンペーン関係業務
4. あいサポート運動関係業務
5. 関係団体との連携
6. 運営企画会議への参画
7. PTA研修会第10回全国大会への参画
8. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
9. その他

〈特別委員会・実行委員会〉

全国大会実行委員会

- 1. PTA研修会第10回全国大会の連絡・調整・実施
2. PTA研修会第11回全国大会の企画・連絡・調整
3. その他

戦略的活動特別委員会

- 1. 附属学校改革に関する情報収集・情報発信・諸対応
2. 附属学校の働き方改革への協力
3. 特別広報活動 (附属学校に関する戦略的広報活動) の企画
4. 附属学校応援組織設立の調査研究・実施
5. 運営企画会議の企画・運営
6. 必要とされる活動についての検討と割り振り
7. 活動についての検証
8. その他

令和元年度 活動基本方針

全国国立大学附属学校PTA連合会

全国国立大学附属学校PTA連合会(以下、連合会)は、全国56の国立大学法人に設置された幼稚園49園・小学校70校・中学校71校・高等学校15校・義務教育校2校・中等教育学校4校・特別支援学校45校、計256校園(平成31年度3月現在)の置かれていた現状と求められる使命を十分に理解した上で、その絆とスケールメリットを生かし、子どもたちの学習環境の充実と安心・安全の確保、さらには附属学校の発展、国立学校としての国の未来を見据えた日本の公教育の振興に寄与することを目的としてPTA活動の実践と研鑽を推進する。

また、全国国立大学附属学校連盟(以下、連盟)とともに、日本教育大学協会をはじめとする諸団体と連携しながら附属学校および附属学校を設置する国立大学法人をサポートし、附属学校の持つ独自性や創造性、社会的使命、存在意義、現状などを、それぞれの地域社会および全国的に発信することにより広く世の中の理解と支援が得られるよう積極的な活動を展開する。

**1 共有、対話による理解**  
附属学校の果たすべき使命である日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割について、学校をサポートすべくPTAが参画し研究実践することで得た情報を会員相互で共有するとともに、連合会はその貢献度を各関係省庁や諸団体に広く発信していく。また、各学校PTAがそれぞれの学校で直面する課題を解決するための一助として設置者である国立大学法人とのさらなる連携と対話を提唱する。

**2 附属学校PTA活動の活性化支援と各組織の相互連携**  
子どもの成長過程に応じた教育の在り方、学習環境の充実と安全の確保、附属学校を取り巻く諸問題などへのPTAの関わり方を実践研究し、その成果や課題を共有、議論するための研修大会を開催し、連合会、連盟と各学校PTAとの絆をより強く保つ。また、全国9地区主催の実践活動協議会など各地区活動を有機的に支援し連盟との協働による活動の活性化を図る。加えて全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会と情報を共有し連携する。

**3 対内および対外への広報活動の強化**  
各学校PTAがしっかりと子どもたちとそれぞれの学校に寄り添い有意義な活動ができるよう、参考となるPTA活動の事例および情勢などを全国の附属学校および各学校PTAに発信し情報共有の強化を図る。また、附属学校がさらに広く世の中の理解と支援が得られるようマスメディアや関係諸機関に対し積極的な広報活動を展開する。さらにはICTを活用した情報交換、共有など、連合会が主体となつてその運営強化を図る。

**4 「共生社会」への推進**  
連合会では特別支援教育に対する理解と連携を進める諸活動の推進を掲げ、さまざまな取り組みを継続してきた。これからは校種を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との相互理解を育む活動を推進および発信する。また、自己を共に尊重する態度・能力の育成、自己有用感・自己肯定感の育成を目指した活動を推進しインクルーシブ社会および一億総活躍社会の実現の牽引に務める。

**5 国の目指す教育改革の先駆者として**  
国の目指す教育改革の先駆者たる附属学校のPTAとして、連合会は学校の働き方改革に協力するとともに教員という職業の魅力度向上に貢献する。加えて土曜日や放課後の有効活用ならびに外部人材や資源を発掘し子どもたちの新しい学びの環境を創造することを提唱する。また、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないようその現状を調査研究および実践し、有効な対策と教育を通じて貧困が連鎖することなくすべての子どもたちが夢と希望を持って成長することのできる社会の実現を目指した活動を推進する。さらには学校の内外を問わず子どもたちの安心・安全を確保するため防犯・防災に関する教育や活動および有害なIT環境の問題から子どもたちを守る活動を推進する。

会長 神余智夫

役員・委員長・監事・顧問・地区会長の活動方針

 <p><b>呉本 啓郎 直前会長</b> 前任会長としての職務経験を活かし、業務全般について会長の諮問に応じ、連合会の更なる発展のため全力でサポートさせていただきます。</p>	 <p><b>大竹 昌士 副会長(総務・広報・特別支援委員会担当) / 戦略的活動特別委員長</b> 附属学校のあり方を考え、現代的教育課題やインクルーシブ教育への取り組みをはじめとし、全国各地域のために公益的かつ公共的な活動ができるよう支援して参ります。</p>	 <p><b>萩原 清明 専務理事(総務・財務・研修委員会担当) / 戦略的活動特別委員会副委員長</b> 連合会の合理的かつ的確な運営を行い、関係省庁や各関係機関との連携をより一層深めていきます。</p>
 <p><b>北島 一人 副会長(広報委員会担当)</b> 子どもたちのため、日本の将来のために、附属学校の引き継ぐべき伝統と、「令和」という新たな時代に求められる附属の在り方を常に考えて参ります。</p>		 <p><b>平岡 昌純 副会長(研修委員会担当) / 全国大会実行委員長</b> 附属がめざす「共生」とは何かを考え、また参加者にとって新しい学び・気づき・出会いのあるPTA研修会第10回全国大会を目指します。</p>
 <p><b>桑名 良尚 総務委員長</b> 我々が丸となり子どもたちの笑顔を守りましょう。子どもたちとこの国の未来のためにできることを考え、汗をかく所存です。助成金事業活用してください。</p>	 <p><b>西村 寧 財務委員長</b> 財務・会計の管理業務を中心に、財政教育プログラムおよび金融経済教室の更なる普及促進、そして、ファンドレイジング事業の推進に努めて参ります。</p>	 <p><b>中村 裕治 広報委員長</b> 附属学校園内外に正確な情報を全国で共有し、丁寧な周知・広報活動に努めて参ります。</p>
 <p><b>谷田部 秀男 研修委員長</b> 「また来たい～ここにしかない大会～」を合言葉に全国大会の成功にむけて、全力で頑張ります！1人でも多くのおみなさんのお越しをお待ちしております！</p>	 <p><b>増田 梓 特別支援委員長</b> 校種を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との関係を育む活動を推進し、子どもたちの未来と保護者をサポートします。</p>	 <p><b>安村 俊己 監事</b> 本年度は法人化に向けて動き出す一年となります。また多様な全附P連活動においてそれぞれが適切に行われていくことをしっかりと担保するように業務をして参ります。</p>
 <p><b>板倉 雄一郎 監事</b> 現在全附P連はさまざまな活動を行っております。税理士の専門的な知見を活用し、業務・会計監査を行うことにより、活動を支援して参りたいと思います。</p>	 <p><b>井上 恒治 顧問</b> 「広い視野と長期的な視点で皆を支える！」顧問団の一員として、連合会の更なる発展のため、業務全般について全力でサポートさせていただきます。</p>	 <p><b>大倉 宏治 顧問</b> 本年度は一般社団法人化を迎えた大切な一年になります。これまでの経験を生かして、また職業会計人としての知見を活かして、附属の子どもたちのために尽力していきたいと思ひます。</p>
 <p><b>竹川 裕之 顧問</b> 今年も強力な顧問団の一員として、全附P連での経験と知識を生かし、長期的な視点とチームワークの良さで、皆さまをサポートしていきたいと思ひます。</p>	 <p><b>鈴木 信雅 顧問</b> 全附連の役割が年々重要となっておりますが、全附P連での理事監事6年間の経験を生かし、今後の活動を陰ながらサポートして参りたいと思ひます。</p>	 <p><b>岡部 太郎 顧問</b> 特別支援学校・学級のみならず、さまざまなハンディを持った子どもたちを受け入れる教育環境を率先して作る附属となるよう、活動をサポートして参ります。</p>
 <p><b>服部 直毅 北海道地区会長</b> 全附P連と北海道地区の情報共有を更に進め、一丸となって活動して参ります。一年間どうぞ宜しくお願い致します。</p>	 <p><b>田辺 雅人 東北地区会長</b> 東北地区は広く距離が離れておりますが、24校園が共に特色を生かしつつ、情報を共有し、子どもたちの未来の幸せのために活動させていただきます。</p>	 <p><b>高地 たか子 関東地区会長</b> 国立附属学校園の伝統を守りながら「令和」の風を感じられる活動をしていく所存でございます。関附連千葉大会への皆さまのご参加をお待ちしております。</p>
 <p><b>佐々木 誠治 北信越地区会長</b> 引き続き「対話」と「交流」を推し進めていきます。情報を共有し、気づきから変革へ繋がるように、お手伝いさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>	 <p><b>陰山 明典 東海地区会長</b> 子どもたちの未来のために、情報化社会に向けて、ITやSNSなどを活用し、シンプルかつスマートに運営し、地域と連携し率先的活動を目指します。</p>	 <p><b>寺畑 俊雄 近畿地区会長</b> 子どもたちを取り巻く環境が著しく変化していく中で、連合会として何をすべきか！現代的教育課題についても率先して取り組んで参ります。</p>
 <p><b>山下 浩史 中国地区会長</b> 子どもたち、そして附属学校の未来のために活動していきたいと思ひます。まずは風通しを良くして地区内の連携をより一層強めたいと思ひます。</p>	 <p><b>宮本 昌尚 四国地区会長</b> 四国4県のネットワークを活かし、各学校園で改革を進め、より良い附属学校園になれるよう、より有益な情報を共有して参ります。</p>	 <p><b>中川 恵司 九州地区会長</b> 九州地区の今年度のテーマ「ともに」新しい時代の創り手となる子どもたちのためにできること」を合言葉に有意義な活動を目指します。</p>

# 附属学校連絡協議会 開催

6月1日(土)9時45分からホテルプリランテ武蔵野 2Fエメラルドに於いて、日本教育大学協会、全国国立大学附属学校連盟の共催、また文部科学省、国立大学附属学校PTA連合会の協力による連絡協議会が開催されました。協議会では「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の報告書をあらためて確認し、今後の附属学校における「不断の改革と周知」の推進と実現にむけた報告、講演が行われました。



大阪大学  
ファンドレイジング部門  
特任専門職員  
吉田 富士江氏



国立大学附属学校の在り方検討  
ワーキンググループ座長  
(鳴門教育大学副学長)  
西村 公孝氏



文部科学省総合教育政策局  
教育人材政策課  
教員養成企画室長  
高田 行紀氏

- ①存在意義、成果提供先・活用方法の明確化
  - ②多様な選考方法
  - ③幅広い意味でのモデル
  - ④大学によるガバナンス
- 連絡協議会は、出口利定 日本教育大学協会会長(東京学芸大学学長)、および開催地の薄井俊二埼玉大学教育学部長からの挨拶で開会し、高田行紀 文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長より附属学校の改革の方向性に関する施策説明が行われました。その中でまず中長期的な方針として

## 新たな施策でさらなる改革を

文部科学省による施策説明に続き、国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループ座長の西村公孝鳴門教育大学副学長からの報告では、国立大学附属学校の自己点検・評価に関して「見える化」した評価指標・評価基準に関する説明があり、附属学校園の改革に向けた取り組みに対する判断基準について報告がされました。

また講演においては、大阪大学ファンドレイジング部門特任専門職員の吉田富士江氏から「日本の寄付事情と大学のファンドレイジングの現状、そして今後の展望について」と題し、日本における大学への寄付額、寄付者数が諸外国とくらべ、いかに少ないか、さらに寄付を取り巻く政策や制度、考え方の違いなどについて事例紹介が行われました。

## 「不断の改革と周知」に期待

- ⑤教育研修に貢献する学校への機能強化
  - 次に早急に対応すべきこととして
  - ①校長の常勤化
  - ②教員の働き方改革のモデル提示
  - ③地域住民等の参画を含む学校運営の改革
  - ④成果の追跡と深化
  - ⑤特色等の明確化のための仕組み
- さらに附属学校の機能強化と効率化への取り組みとして
- ①現在の規模や学校等の検証
  - ②各附属学校間の役割分担、教育研究成果の還元方法、その効果の最大化のための入学者選考方法の検証
- また、新しいSociety5.0の時代に向けてICTやAI等の最新技術の導入に対応した学びのあり方や働き方の変化に対応した人材の育成の重要性、クラウドファンディング等を活用した学校運営の事例等が紹介されました。

### 平成30年度

## 全附P連 表彰紹介

全附P連では、PTA活動の顕彰と発展を目的とし、①事業部門 ②組織改革部門 ③オリンピック・パラリンピック関連部門の部門別に団体表彰を行っています。その中から昨年度の会長賞を受賞されました「大阪教育大学附属幼稚園PTA」の活動をご紹介します。

## 緑育・植樹で みんなの思いがつながる

「子どもたちのために」みんなが力を合わせ長年受け継がれてきた伝統ある附属幼稚園のPTA活動。これを子どもたちの大好きな「さんりんしゃ」にたとえ、困難な時でも子どもたち、先生、保護者の3つの輪がうまくかみ合いながら前に進んできました。附属幼稚園の「さんりんしゃ」は窮地からの復興に大きな役割を果たしました。



昨年9月の台風により附属幼稚園は大きな被害を受け、自然に囲まれた園庭を一変させました。自慢の大きな木を失い、変わり果てた姿にみんなが心を痛めました。子どもたちの笑顔が溢れる幼稚園を一刻も早く取り戻すため復旧作業に集まってくださった先生方、保護者および平野五校園の皆さまの協力により、荒れ果てた幼稚園は僅か3日で再開できるまでになりました。しかし長年子どもたちの成長を見守ってきた緑豊かな



幼稚園の姿には程遠く、そこでPTAとして今の子どもたちと未来の子どものために自分たちにできることはなにか、考えた末に辿り着いた答えが「緑育と植樹」でした。

子どもたちと緑の大切さを学んだ緑育、幼稚園への願いを込めて行った植樹は、被災から復旧：そして復興へと子どもたちの未来へつながり、緑の持つ力と美しさ、自然の尊さを私たちに教えてくれました。植樹された10本の樹々が園庭を彩り、先人たちが大切に育んできた緑豊

## 未来へ漕ぎ続ける「さんりんしゃ」

かな幼稚園を取り戻すための第一歩となったと思います。子どもたちも災害を通して自然の厳しさを経験し、周りの大人が自分たちのために一生懸命頑張ってくれている姿を身近に感じたでしょう。今後もこの活動を継続し、子どもたちの未来を明るく照らせるように附属幼稚園の「さんりんしゃ」は力強く前に進み続けます。この取り組みを支えていただいた一般社団法人日本植木協会の皆さまをはじめ活動にご協力いただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。

大阪教育大学附属幼稚園  
PTA会長  
牧之瀬 武史



### 表彰者一覧

- 会長賞**  
大阪教育大学附属幼稚園PTA  
緑育・記念植樹
- 事業部門 優秀賞**  
岐阜大学教育学部附属学校PTA  
大学と学校、PTAで連携して行った「擁護学級親子デイキャンプ」  
高知大学教育学部附属小学校PTA  
防災バザー  
高知大学教育学部附属幼稚園  
保護者と保育者の会  
保護者と保育者でつくる幼稚園図書室  
～生まれ変わった「絵本の部屋」～  
上越教育大学附属中学校PTA  
IoTタブレット端末導入サポート  
富山大学人間発達科学部附属幼稚園 みどり会  
ぬいぐるみ病院
- 組織改革部門 優秀賞**  
島根大学教育学部附属幼稚園  
少子化に負けないPTA やる気アップ再編
- 2017年絵画コンクール**  
茨城大学教育学部附属四校園



東京学芸大学附属小金井小学校 校舎



東京学芸大学附属小金井中学校 校舎

そのようにして入学し

# 附属時代の思い出

晴れて進学した附属高校でも忘れがたい恩師がいます。高1から高3まで学級担任された寺沢正巳先生です。大学受験の進路指導の際に、私は弱気になり志願直前に第1志望を回避し、第2志望を受験することとしました。寺沢先生からは「そんな弱気ではだめだ。」と言われましたが、第2志望での受験を強行し、実力不足もあってあえなく不合格でした。しかし、浪人してからも先生から初心貫徹との指導を頂き、そのおかげで1浪後は無事に第1志望に合格できました。

私が今、それなりに仕事が出来ているのは、附属学校の教育と素晴らしい恩師の先生方のおかげだと言っても過言ではありません。本当に感謝しています。



文部科学省 事務次官 藤原 誠様

文部科学事務次官の藤原です。文部科学省は昨年、一昨年と不祥事が連続しましたが、昨年10月に就任して以来、聡明な柴山大臣のご指導の下、組織の立て直しに日々努力しています。

さて、私と国立附属との関係ですが、昭和38年度に東京学芸大学附属小金井小学校に入学したのが始まりでした。今でも鮮明に覚えていることは、入学試験（筆記）の時に、私は左利きだったので左手に鉛筆を持つとうとしたのですが、他の受験生が右手で鉛筆を持っているので、無理に右手に持ち替えたため、直線引きなどで苦労したことです。

た小金井小学校ですが、幼稚園の時立幼稚園に徒歩で通っていたため、いきなり電車通学となり大変でした。入学してから低学年3年間の担任だった腰山太刀男先生は、今でも忘れられない恩師です。その頃は前回の東京オリンピックが開催されたこともあり、サッカーがブームでして、授業の休み時間など暇さえあれば校庭に先生が出て、一緒にサッカーボールを追いかけていました。雨の日は校舎内で一緒に相撲の真似事をしました。このように暖かい心持の腰山先生の下、私の小学校時代はほとんど勉強が中心で、中3になる

強じた記憶がなく、楽しく学校生活を過ごしました。その後、小金井中学校に進学してからは、中1の最初の中間試験で何ら事前勉強せずにひどい成績を取ったため、それ以降は定期試験に向けてそれなりに勉強するようになりました。学芸大附属中学は4校あって附属高校は1校なので、中3になると受験勉強がありました。



東京学芸大学附属高等学校 校舎

## 附属OB訪問 プラス

国立大学附属学校卒業生の皆さまからご寄稿いただきました。



当時の大阪教育大学附属平野小学校



平成30年度 大阪教育大学附属平野小学校 PTA会長 由岐中 真知様

「私以上に附属小学校にお世話になった者はいないかもしれない。今引き受けずして、いつ恩返しできるのか？」PTA会長就任の打診を賜った際、最初感じた率直な気持ちです。私の祖母が附属平野小学校の前身である大阪府女子師範学校附属小学校を卒業し、その流れを受け継いで父・私・息子と4代に亘り附属平野小学校にお世話になっていきます。ちなみに叔母・弟も同校出身、平野ではないものの娘は現役附属中生、甥2人も附属生であり、合計9名が国立

# 繋がりそして 繋いでゆく伝統

ると、参観日ではない等身大の子もたちがあります。自分が小学生だった時と同じように、答えを教えない先生・人と違う意見をひねり出すという生徒・ワイワイと試行錯誤しているグループワーク、という場面を数多く見てきました。PTA活動も同じで答えはありません。「長らく続いているこの活動は本当に必要か？今の時代に照らして変える・やめる必要はないか？」

返しになったのではないかと感じていました。私が小学生だった頃とは異なり、変化のスピードは格段に速くなっています。今は小学生の息子にやるべきことや進む方向を指し示すことができず、10年後には予想もつかない世の中になっているでしょう。そうした時代においても附属平野小学校生であれば自ら進むべき道を探していけるのではないかと信じています。時代の変化にとらわれない「一人で考え、人と考え、最後までやり抜く子」という教育目標が今後も受け継がれ、未来を切り開く子どもたちが一人でも多く羽ばたいていくことを願っています。



現在の大阪教育大学附属平野小学校

大学附属小学校にお世話になっています。附属平野小学校の教育目標は「二人で考え、人と考え、最後までやり抜く子」ですが、少なくとも数十年間は変わっていません。生徒は勿論、保護者の目標が自分の子どもを附属平野小学校に通わせたいと思つた理由です。

PTA活動に携わっていると、必然的に学校を訪れる頻度は高くなります。教室に目をやると、観点を先生方やメンバーと意見を出し合ってきました。先生方や保護者の期待に応えられたかどうかは分かりませんが、教育目標を常に念頭に置いて行ってきた1年間の活動は自分の成長につながったとともに、少しの恩

### 入賞作品

#### 会長賞

名前	タイトル	学校園名
札幌 希実	藤永先生が教えてくれたこと	鳴門教育大学附属特別支援学校

#### 優秀賞（作文部門）

名前	タイトル	学校園名
青戸 愛唯	大好きなヒーロー・遠藤直人先生へ	北海道教育大学附属釧路小学校
柏岡 富士子	先生との思い出を、今この書に	鳴門教育大学附属中学校
中村 妃更	あこがれの先生	愛知教育大学附属名古屋小学校
磯貝 耀	ぼくの先生	愛知教育大学附属名古屋小学校
服部 憲人	せんせいのことば	金沢大学人間社会学域学校教育学部附属幼稚園

#### 優秀賞（絵作文部門）

名前	タイトル	学校園名
奥居 桜子	先生って大きいね	千葉大学教育学部附属小学校
近藤 匠真	先生との思い出	静岡大学教育学部附属特別支援学校
川池 結月	楽しいお芋掘り	鹿児島大学教育学部附属幼稚園
河合 陽南	なお子せんせいのたのしいじゅぎょう	岐阜大学教育学部附属小学校
横須賀 京香	おはなし	茨城大学教育学部附属幼稚園

#### 特別賞

愛知教育大学附属名古屋小学校
----------------

上記入賞作品は全附P連ホームページからご覧いただけます。

藤永先生が教えてくれたこと  
鳴門教育大学附属特別支援学校  
高専部二年 札幌 希実


私は毎日がとても楽しいです。それは、学校でほめられることがたくさんあるからです。「字がとてきれいだね」「ストレッチうまい」「がんばりやさんだね。」「全部、藤永先生が教えてくれたことばかりです。」先生が教えてくれた事で、一番役立っているのは、「お料理」です。私が作った料理を家族が「おいしい、おいしい」と言って食べてくれます。また、一番たいへんだったことは、「縫いもの」と「劇のせりふの暗記」でした。小さい目で布を縫うのは難しいし、せりふを覚えるのに何日もかかりました。でも今では、「さし子」は誰にも負けない自信があります。おまかせください。来年は社会人になります。就職して母を助けたいです。

### 全附P連

## 〈作文・絵作文コンクール〉

# 「先生へのメッセージ」 「先生との思い出」

## 入賞作品紹介



- 審査日** 2019年1月30日
- 審査会場** 鳴門教育大学附属中学校
- 審査員** 児童文学作家  
くすのき しげのり氏（審査委員長）  
全国国立大学附属学校PTA連合会正副会長・総務委員会

本年1月、全附P連の新事業として「作文・絵作文コンクール」を開催いたしました。子どもたちが日常の学校生活や家庭生活の中で得た体験や感動、感謝を、作文を書くことを通じて、人への感謝や基本的人権について理解を深めるとともに、SNSに頼りがちな昨今、文章表現によるコミュニケーションの魅力を知ってもらうことで、字を書く文化の振興を図り、心豊かな生活を身に付けることを目的としています。

今年度のテーマは「教師の日」制定支援にちなみ、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。

先生への感謝の気持ちや、先生と一緒に過ごした楽しい日々なことなど、子どもたちの素直な感情が満ち溢れる作文・絵作文が寄せられ、11点の入賞作品が選出されました。



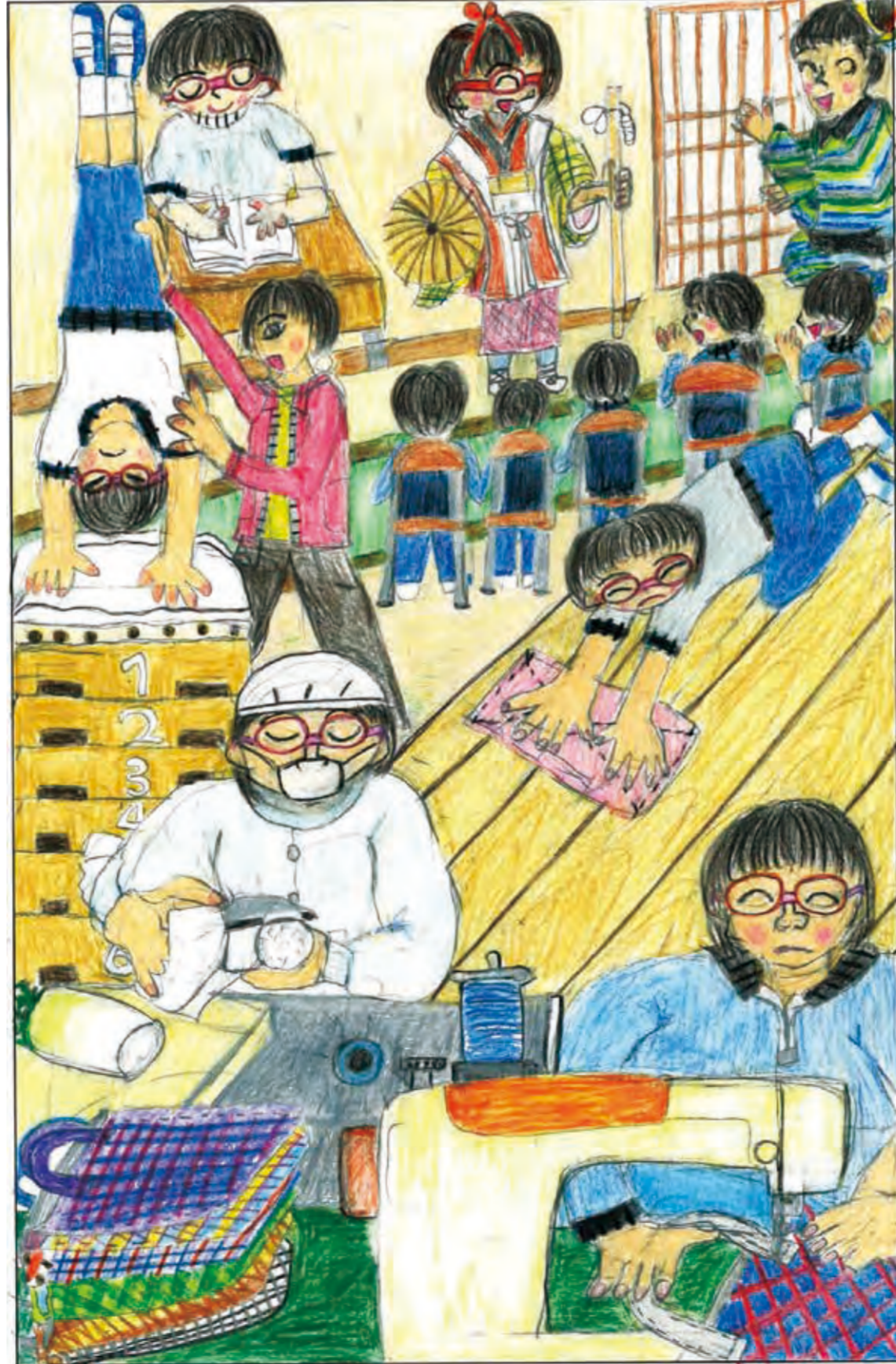
審査会の様子

### 「教師の日」とは

現在、まだ日本ではあまり知られていませんが、毎年10月5日は「教師の日」として、1994年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）により制定され、学校、家庭、地域のそれぞれがお互いに尊敬・信頼し合えるような環境の構築を目的としています。

すでに世界においては、19世紀から、そして現在では約60カ国において、地元の教育者の担っている重要な職責に対して理解を深めるきっかけや、教育における重要な日として定められています。

日本では2017年、政府の教育再生実行会議の第10次提言で提言され、制定に向けた活動も活発化してきており、教育実習校・現職教員研修校・教育研究実践校として、また国や地域のモデル校として公教育のさらなる向上を担う国立大学附属学校のPTAとしても、大きく支援するとともに、先生方がモチベーション高くいきいきと教育に取り組むことができる世の中を目指しています。



### 会長賞

鳴門教育大学附属特別支援学校  
札幌 希実さん

## 「藤永先生が教えてくれたこと」

会長賞に対する  
審査委員長コメント  
くすのき先生  
からひと言

学校生活のさまざまな場面での楽しい様子が、いきいきと描かれた絵です。そして「藤永先生」が教えてくださったことが生活の中で生きて働く力となっていることがよく分かります。藤永先生をはじめ、今まで教えてくださったたくさんの方の温かいまなざしまで感じられる作品です。

## 審査委員長

### 児童文学作家 くすのき しげのり氏

**プロフィール**  
1961年徳島県鳴門市生まれ  
鳴門教育大学大学院修了  
1986年より徳島県公立小学校教諭として教壇に立つ。  
鳴門市教育委員会事務局指導主事・鳴門市図書館副館長への出向を経て絵本「おこだでませんように」(小学館)が2009年度全国青少年読書感想文コンクール課題図書に。2011年 教員を退職し「オフィスKUSUNOKI」を設立。  
児童文学作品を中心とするさまざまなジャンルの作品の創作活動と講演活動を本格的にスタートさせる。「ええところ」(学研)・「ともだちやんな、ぼくら」(えほんの杜)等教科書掲載作品をはじめ、「Life (ライフ)」(瑞雲舎)・「あなたの一日が世界をかえる」(PHP研究所)・「海の見える丘」(星の輪会) など100タイトルを超える児童文学作品は、日本および海外で広く読まれている。

日本児童文芸家協会評議員・徳島児童文学会会長  
四国大学文学部非常勤講師 (絵本・児童文学創作)  
徳島大学総合科学部非常勤講師 (道徳教育)

## 審査をおえて

この「作文・絵作文コンクール」には、第一回にもかかわらず、全国の国立大学の各附属学校から素晴らしい作品の応募がありました。

テーマは、「先生へのメッセージ」や、「先生との思い出」です。

私は、三十年あまり児童文学作家として世界中の子どもの心に届ける作品を書いてきました。

私の作品には、魔法使いが出てきたり突然不思議な力がついたりということはありません。子どもたちの心の中にある大切な思いをテーマにしたものばかりであり、こうした物語の背景は家庭や学校です。とりわけ学校が舞台の作品が多いのは、子どもたちにとって、たくさんの人と関わり、いろいろなことを学ぶ機会に溢れているからです。

今回の応募作品には、そんな学校の様子や先生との学校生活がいきいきと表現されていました。さらには、先生に対する信頼や尊敬や感謝の気持ちも読み取ることができ、審査をしながら、心動かされる作品がたくさんありました。それは、応募者一人一人に、そうした素晴らしい先生との出会いがあったということに他なりません。あたりまえだと思われがちな学校生活のいろいろな場面には、多くの先生方の温かいまなざしがあるのです。

子どもたちの環境を作るのは、私たち大人です。そして、子どもたちが育ちゆく環境を考へるとき、何よりたいせつなのは、人的環境として子どもたちにかかわる私たち大人の姿でしょう。そうであるならば、今回の素敵な作品は、きっと、先生方にとっても、日々の仕事の意義について考え姿勢を正すうえで、大いに励みとなるに違いありません。

# 附属OB訪問

第11回

## 平井 理央氏

### プロフィール

1982年11月15日、東京生まれ。東京学芸大学附属大泉小・中学校、東京学芸大学附属高等学校を経て慶應義塾大学法学部卒業。2005年フジテレビへ入社後「すばると！」のキャスターを務め、オリンピックなどの国際大会の現地中継等、スポーツ報道に携わる。2013年より、フリーで活動中。趣味はカメラとランニング。2015年5月「楽しく、走る。」を新潮社より刊行。



呉本 会長(当時) × 平井 理央氏

東京学芸大学附属小中高の卒業生で、現在、フリーアナウンサーとして活躍の平井理央さんを訪問させていただきました。ご自身の附属学校時代を振り返りながら、小中高それぞれの印象的な思い出について、また、現在は一児の母となられたご自身の保護者としての目線からも附属学校について伺うことができました。

**(呉本)** 現在、我が国には、86の国立大学のうち教員養成系の国立大学・学部が56あり、その附属学校が全国に256校園あります。しかし、国立大学附属学校は意外と世間に知られていないと感じることが多くあります。平井さんはいかがですか。

**(平井)** そうなんです。私の周りには夫も附属の出身で、姉も附属出身。他にも周りには今でも附属の卒業生が多いからか、全然そんな意識はなかったです。

**(呉本)** 附属とご縁が深いんですね。平井さんが附属へ入ったきっかけは何だったのですか。

**(平井)** 2歳年上の姉が附属の幼稚園に通っていて、同じ幼稚園に通いたいと思ったのが最初のきっかけでした。残念ながらその幼稚園には落ちてしまったのですが、その後、東京学芸大学附属大泉小学校に合格して入学することになりました。

**(呉本)** 小学校で印象に残っていることって何ですか。

**(平井)** すごく個人的な小学校だったと思います。毎月のように大きなイベントがあって、毎回、全身全霊を傾けてイベントの準備をする。終わったらすぐに、また次のイベントの準備をしてイベントを迎える。授業以外で学んだことがとても多かったという印象です。いつもイベントのときに決まった歌があって、特に一年生のとき、5月の山登りに向けて一生懸命、歌の練習をしたことを覚えています。

**(呉本)** 附属の子どもは、行事ごとで育つとよく言われますが、まさにそんな感じですね。

**(平井)** そうだと思います。正解はひとつではない答えを求めて、皆で試行錯誤することを小さい頃からやっていたと思います。

**(呉本)** 平井さんは小学生の頃、海

## 今も生きる附属学校の教育と環境

### 行事、授業、友達に刺激された附属での日々

外で暮らしたご経験をお持ちだそうですね。

**(平井)** 父の仕事の関係で2年生から3年生までインドで暮らし、4年生の時に復学しました。復学したときは同級生に比べて自分の学力不足を感じました。でも、少しずつ遅れを取り戻すことができたのは、のびのびとした附属の教育のおかげだと思っています。もし、附属の授業が詰め込み型の学習だったら萎縮してしまっていたと思います。授業に対してきちんと向き合うことができたし、中にはからかったりして子どもいたけれど、そうでなくフラットな目線を持つ子が多くいて環境もよかったです。今は多様性やインクルーシブが重要視されています。私も親として自分の子どもにはいろいろな友達と接したり、多面的

に教えてくれる先生方に教わったりしてほしいなと思います。

**(呉本)** ご自身の経験に基づき、附属らしい発想ですね。中学校生活はいかがでしたか。

**(平井)** 中学校はこんなに自由でよいのかと思うくらい自由でした。学校での決まりごとは部活に入らなければいけないことくらいで、とても自由な時間を過ごしました。

**(呉本)** そういう決まりがあったのですか。部活は何をしてもらったのですか。

**(平井)** バレーボール部に入っていました。運動は苦手だったのですが、バレーボールには興味があったので始めてみました。

**(呉本)** 今、学校現場の働き方改革などもあって部活は縮小傾向にありますが、どう思われますか。



**(平井)** 自分の経験からすると、部活を通じた友人は今でも続いています。部活をしていなかったら繋がっていません。

**(呉本)** 一緒に汗をかいた同志みたいな感じですね。

**(平井)** そうですね。決して強いチームではなかったのですが、部活の目的はそれだけではなく、私はスポーツを介したコミュニケーションのつくり方を経験することができてよかったです。思っています。

**(呉本)** 他に中学校で印象に残っていることはありますか。

**(平井)** 中学校の授業は好奇心を刺激される授業が多かったという印象です。先生がいきなり英語の歌をかけて「何と言っているか皆で聞き取ってみよう」と言ってカタカナで音を書いて、自然と本場の発音に耳が慣れてくるなんてことがありました。地理の授業では世界各国の国名テストがあって、世界の隅々まで国名を覚えていたりしました。取材のときに、周囲があまり知らないような国でも「あっ、その国ってこちらへんにある国ですよ。知っています」とか、今でも当時の経験が生きています。でも、覚えるといっても、あまり強制的ではなく、授業で刺激されて自ら探求するといった感じでした。

**(呉本)** 小学校での印象は行事、中

学校では授業での刺激が印象的だったんですね。高校のときはどうでしたか。

**(平井)** 高校時代の印象は何より友達ですね。とにかく生徒の自主性にまかせる学校でした。中には金髪やアフロヘアの子がいてびっくりしました。一方で中学時代の模試で全上位の子が普通にいたりして、雰囲気は自由なだけだけど自分がしっかりしないといけないという焦りを感じました。

**(呉本)** 中学校では先生、高校では周りの友達に刺激された感じですね。ところで、今、国立大学附属学校が存在意義を問われ、国税で運営されていることなどに対する批判の声もあります。平井さんのご意見をお伺いしてもよろしいでしょうか。

**(平井)** いろいろな意見があることも大切なことだと思います。でも、私は附属での経験が今も生きているし、そこには自分の子どもも通わせたいと思うようなすばらしさがあることもわかってほしい。国立に限らず公立の学校も、どういう教育をしてどういう成果が出ているのか、その学校を卒業してどんな人がどのように活躍しているのか、そんな情報がわかりやすく発信されていたらよいですね。

**(呉本)** ありがとうございます。最後に附属へ通っている子どもたちと先生方、保護者の皆さんへメッセージをお願いします。

**(平井)** 私は今でも附属時代の同級生と頻りに連絡をとっています。附属でできた友達との絆はずっと続いていくので、今を思いきり楽しんで、たくさん仲間をつくってほしいと思います。

**(呉本)** 先生方へいかがですか。

**(平井)** 附属の先生は本当に大変なお仕事だとは思いますが、先生が



言ったことや授業が忘れられないという人がたくさんいます。これからも附属の子どもたちへ、そんな授業や経験をたくさん提供し続けていきたいと思っています。

**(呉本)** 保護者へもお願いします。

**(平井)** 私も親になってわかることや、今になって気付く自分の両親への感謝の気持ちがあります。お子様たちが通われている附属の教育はすばらしいものだと思うので、ぜひ、お子様や学校を信じて見守っていただきたいと思っています。

**(呉本)** 平井さんは、ご自身のお子様を附属に通わせたいと思いますか。

**(平井)** ご縁があれば、ぜひ、通わせたいです。附属幼稚園は園までの距離や保育時間と仕事との兼ね合いを考えると、なかなか難しい部分があるのですが…。

**(呉本)** 今、附属学校改革の中、幼保連携や延長保育など、多くの附属幼稚園が働く女性も通わせやすいことを視野に入れた改革を進めようとしています。

**(平井)** 3年以内にお願います！(笑)

国立大学附属学校全国同窓会

# 設立総会 を開催！

## 会長に 塩谷立氏 (静岡附属中卒)

平成31年3月15日、ハイアットトリージェンシー東京にて、約80名の出席者のもと「国立大学附属学校全国同窓会設立総会」が開催され、設立及び会則が承認されました。

また同窓会初代会長に塩谷立氏（衆議院議員・静岡大学教育学部附属静岡中学校卒）が就任し「国立大学附属学校は、長年にわたり積極的にかつ充実した活動を続け、日本の教育に多大なる貢献をしてきました。しかしながら、国立大学の法人化や運営交付金の在り方によって、短期的な評価が困難な附属学校においては、非常に厳しい環境下にあるのが現状です。

今後の日本の教育のためには附属学校の役割が必要不可欠であるのと、力をあわせ応援の輪を広げるとともに、改革を推し進めていこう」とあいさつしました。  
同会令和元年度役員は下表のとおりです。

### 令和元年度役員（五十音順・敬称略）

顧問	尾辻秀久・原田憲治・三原朝彦・森 英介・吉村作治
会長	塩谷 立
副会長	逢沢一郎・石破 茂・新田八朗・日比野克彦・船田 元・茂木健一郎
幹事長	山本晴章
副幹事長	大野敬太郎・神余智夫
幹事	大申博志・笠井 亮・風間直樹・加藤敏彦・金子恵美・神山佐市・源馬謙太郎・後藤田正純・齋藤 健・佐藤公治・末松信介・杉尾秀哉・鈴木貴子・辰巳琢郎・寺田 稔・中田敦彦・野村修也・平井卓也・福島みずほ・藤井比早之・藤田幸久・前原誠司・丸野 亨・山崎直子・山田修路
事務局	局長；鈴木信雄 次長；桑名良尚



### 推薦団体挨拶

全国国立大学附属学校PTA連合会  
会長 呉本啓郎（当時）

今、国立大学附属学校のおかれていた立場は非常に厳しく、一昨年の有識者会議では「少子化の中、今まで通りに国立大学附属学校が必要なのか」「一部のエリートのために国費を使って運営されている学校はいかなるものか」などの意見が飛び交いました。

「子どもたちとこの国の未来のために」をスローガンとし、附属学校の「改革」と「周知」を通じて今の世の中にさらに理解される附属学校をめざして活動している私たちとともに、この全国同窓会会員のお一人おひとりが、さらに附属学校の大ファン、大応援団となつてくださることを切に願います。

全国国立大学附属学校連盟  
事務局長 田中一晃

附属学校のいいところはたくさんあります。ただそれを自慢していても自己満足にしかならず、周囲の人たちにとって附属学校の必要性までには結びつきません。

我々附属側が謙虚になり、どうすれば地域に役立つ存在になるのか、今の時代何を求められているのかをもっと真摯に考え、変わっていかねければならないと考えます。国立附属学校はもともと公共性を持って、地域に還元できるようではなくては、存在意義を疑われるようになってしまふことでしょうか。

日本の教育に求められている「附属学校」の実現に向け共に頑張っていきたいと思います。



## 熊本大学教育学部附属中学校PTAからのお礼

平成28年4月14日21時26分最大震度7（前震）、同年4月16日1時25分最大震度7（本震）と2つの大きな地震に遭遇し、甚大な被害がでた熊本地震。停電・断水などライフラインが止まり余震も多く、学校も休校を余儀なくされました。そんな時たくさんの方々の皆さまからのご支援・励ましのおかげで、言葉をお聞きいただき、中でも全国のたくさんの方々の附属学校園から義援金・お手紙や絵などいただいたことがどれだけ元気と希望をもたらしてくれたか計り知れません。校舎や備品などに被害はありませんでしたが、現在ではほぼ地震前の状態に戻っています。

皆さまからの義援金は被害を受けた備品の修理・補てんや災害備蓄品・防災用品などに充てさせていただきました。また約1ヶ月ぶりの学校再開においても、まだまだ余震が1日大小10数回と発生する中、元気に登校する子どもたちを思い出します。これも皆さまのご支援の賜物だと思えます。それでも余りある義援金をどう有効活用するかの議論を重ねてまいりました。地震発生時当校は広域避難場所に指定されています。しかし近隣の広域避難場所に指定されている公立学校がしばしばないという点で、当校も急遽避難場所として開放いたしました。小学校も同じ敷地にあるこ

## 心あたたまる義援金 ～熊本地震から3年が過ぎた今...～

とから先生方・PTAが協力して数日間運営にあたりました。その避難時に重要なものの1つがトイレでした。外部トイレがないため校舎等のトイレを使用することになったのですが、皆さまにたいへん不便をかけたしまいました。そのような経緯から、また今後起こりうる災害にも対応でき地域の皆さまが避難時に利用できるようなと外部トイレを建設するに至りました。建設場所などの諸問題で紆余曲折ありましたが、平成31年4月27日竣工となり、全国の附属学校園の皆さまからの心あたたまる義援金・ご支援を有意義に活用できたのではないかと思います。



熊本大学教育学部附属中学校  
令和元年度PTA会長  
竹岡博幸





# 寄稿

「価値デザイン社会」。知的財産戦略本部（本部長・内閣総理大臣）で決定された「知的財産戦略ビジョン」の中で、我が国が目指すとしている社会です。第4次産業革命により「Society 5.0」と社会が移行していく中、「経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、そ



内閣府知的財産戦略推進事務局  
参事官（産業競争力強化担当）  
**仁科 雅弘様**

## 「価値デザイン社会」を目指して

「価値デザイン社会」で新しい価値創出の源泉となるのは「多様な個性」であって、ある評価軸において尖った人材が評価されるようになり、「脱平均」が求められています。では、「脱平均」をどのように実現するのでしょうか。子どもたちは個性を有しており、それぞれが好き、楽しいと思えることを見つ

れが世界で共感され、リスクペクトされていく、そんな社会が望まれています。従前の社会では、複数の評価軸で万遍なく評価される人材が求められてきました。しかし、「価値デザイン」は「脱平均」、「融合」、「共感」の3つの柱から構成され、このうち「脱平均」を後押しするため、「知財創造教育」をはじめとする施策が掲げられています。今までは異なる教育の推進には、教員や保護者の皆様の理解が欠かせません。皆様も一緒に「価値デザイン社会」を目指そうではありませんか。



財務省 大臣官房地方課  
広報連絡係 課長補佐  
**菅原 元樹様**

全附連と財務省の連携による「財政教育プログラム」は、本年6月に五年目に入ります。現在は、年間一八〇校以上（公立・私立含む）、約一万五千名の児童・生徒へ実施する程に成長しました。



金融庁総合政策局総合政策課  
課長補佐  
**安野 淳様**

## 金融経済教室について

全附P連さんのご協力のもと、金融庁が昨年4月に開始しました附属学校における「金融経済教室」も本年6月末までに18校で開催することができました。全附P連さんや附属学校の先生方をはじめ、ご協力いただきました全ての関係者の皆さまに、この場をお借りして、改めて深く御礼申し上げます。

現代社会において、自立した生活を営む上では、金融と目を見合わせる姿、そして、意見を堂々と述べ合う子供たちの姿を見る度に、我が国の未来を担う子供たちの頼もしさを感じております。選挙権年齢が18歳に引き下げられた現在、未来を担う子供たちが、財政に関心をもち、自ら考えることはより良い未来のためには必要不可欠と考えております。



の関わりを持つことは避けられません。他方で、2016年に公表された金融広報中央委員会の「金融リテラシー調査」によれば、金融教育を行うべきと考える方のうち、学校等において後とも変わらぬご支援・ご指導をいただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



公益財団法人  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会  
組織委員会副事務総長  
**布村 幸彦様**

## 東京2020大会に向けた オリンピック・パラリンピック 教育の推進

東京2020大会まで、あと1年となりました。組織委員会では、東京2020大会がスポーツの価値や多様性を理解するきっかけとなるなど、子供たちにとってかけがえのない財産となるよう、東京2020教育プログラム（よいい、ドーン！）を展開しています。

「平和の祭典」としてのオリンピックやスポーツの持つ力について自ら考え、自らのことばで世界に発信してもらうべく、英語のスピーチ動画を応募いただき、表彰するものです。（日頃、教育現場でご活躍いただいている）附属学校の皆様におかれましては、是非とも参加をご検討いただければと思います。



内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付  
参事官（子どもの貧困対策担当）付  
参事官補佐  
**平田 菜摘様**

子供の貧困率は、平成27年時点で13・9%。およそ7人に1人が「相対的な貧困」の状態にあると言われています。親の収入が少なく十分な教育を受けられない、進学や就職のチャンスにも恵まれず、十分な収入を得られず子供世代も貧困になる、という貧困の連鎖が生じているのです。国は、教育の支援（奨学金の充実等）をはじめ、子供の貧困対策の充実強化に取り組んできましたが、子供の貧困

## 官民連携で取り組む 子供の貧困対策

「子供の未来応援国民運動」を推進し、その一環として「子供の未来応援基金」で全国の支援団体に対して子供食堂や学習支援の活動資金を提供しています。この基金の原資は、古本の査定額が基金に寄付される「こどものみらい

## 未来を考えるきっかけに



子供たちとこの国の未来のために、今後もより良い授業をお届けできるよう、取り組んでまいりますので、引き続き、ご支援いただければ幸いです。

今年度の取組としてまず、教育現場等でご活用いただけるよう、オリンピック・パラリンピック教育に関する教材や授業プランを引き続き開

まわる聖火リレーも始まりです。今後も、より一層子供たちが東京2020大会に映画でできる機会を創出してまいります。大会の成功に向け、引き続きご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

来年3月には全国をOrKIDSに掲載していただきますので、ご覧いただければ幸いです。

# 平成30年度 全附P連助成金事業報告

平成30年度に全国で実施された助成金事業を紹介します。またリスト中の活動についても、一部全附P連ホームページでも紹介しています。ぜひご覧下さい。



## ピザ窯作り・和太鼓体験

「ピザ窯作り」  
野外活動の専門家を講師として招き実施した。子どもたちには難しい活動かと思われたが、レンガ積みや装飾用の石を集めるなど、各々ができることをしながら、子どもたち自身、どんなものができのらうと想像し、期待に胸膨らませ、そして喜びを体感できた活動であった。

「和太鼓体験」  
年長児がPTA主催の夏祭りにて盆踊り太鼓を発表するにあたり、基礎的技術の習得を目的として地元「太田町雷神太鼓保存会」の方々に招き、3回の太鼓教室を行った。日本の伝統文化である和太鼓に触れ、迫力ある生演奏を身近で体験するとともに、夏祭り当日は櫓の上で、これまで練習を積んだ年長児25名が演奏を披露できたことで地域の伝統行事への親近感ももつことができた。

土曜・放課後活動事例紹介

福島大学附属幼稚園



## 中学生のスマホ・SNS事情

PTA会員約200名の参加のもと、中学生のスマホ事情に詳しい、熊本市教育委員会指導主事の田中慎一朗先生を迎え、現代のスマホ事情や、いじめにつながる使用法や家庭内での留意点など、特に気をつけたいことについて講演していただいた。

スマホのトラブルは、持たせ始めの1年間で多く、その時期に家庭内でルールを話し合っておくことが重要なポイントであることなど、実例をもとに注意点が挙げられた。

急速に広まるSNS時代においては、自己をコントロールする力が必要であり、それはスマホの使用時に限らず、子どもたちの将来における社会生活においてもその力が必要不可欠であることを学んだ。

いじめ対策活動事例紹介

熊本大学教育学部附属中学校

## いじめ防止プログラム助成金事業

平成28年度より、単位PTAが実施するいじめ防止に関する事業に対し助成を行っています。全附P連はこの事業を通じ、いじめ対策に関する取り組みが全国的に活発化していくことを願っています。

NO.	学校名	活動名
1	琉球大学教育学部附属中学校	琉大附属小学校及び琉大附属中学校 合同研究会「現代の子育てで大切なこと」
2	福島大学附属小学校	第6学年特別活動講師招聘授業、特別の教科道徳授業参観並びに第5学年保護者集会
3	金沢大学附属中学校	育友会保護者向けいじめ予防プログラム
4	大阪教育大学附属幼稚園	子ども自尊感情向上プログラム
5	熊本大学教育学部附属中学校	いじめ防止プログラム
6	神戸大学附属小学校	育友会幼小保護者向けいじめ対策講習会
7	北海道教育大学附属函館中学校	ICTを活用し「PTA・生徒会・教職員」連携を促したいいじめ対策活動

## 土曜・放課後活動等助成金事業

附属学校園が行う土曜・放課後活動等に対して助成を行っています。これらの活動を通じて、子どもの貧困問題を起因とする学習機会の不均等は正を目指しています。多くの子どもたちが、多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会を得られるよう本事業を有効に活用して下さい。

NO.	学校名	活動名
1	東京学芸大学附属特別支援学校	土曜スポーツクラブ
2	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	みんなと楽しく踊ろう！茶道入門
3	山口大学教育学部附属山口小学校	学年活動
4	高知大学教育学部附属特別支援学校	親子で陶芸・クリスマスリース作り・木工作品作り
5	長崎大学教育学部附属特別支援学校	音楽教室・長崎大学学園祭「長犬祭」・もちつき大会
6	宮城教育大学附属小学校	きれいな学校「緑と花いっぱいになあれ」
7	筑波大学附属大塚特別支援学校	NEW DISCOVERY ～挑戦してみよう～
8	愛知教育大学附属名古屋小学校	おやじの会 第1回～第3回・海外交流事業(晋州教育大学校附設初等学校 児童交流)
9	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	放課後スポーツ活動 FSC (附特スポーツクラブ)・親子ふれあい活動
10	静岡大学教育学部附属浜松小学校	放課後体力づくりプログラム事業「ファミリーバレーボール愛好会」
11	三重大学教育学部附属小学校	親子で参加！デイキャンプ！～作って遊んで学んで～・除草、清掃活動・学校に泊まろう準備会
12	滋賀大学教育学部附属小学校	親子の絆会 ～木工教室・レゴ教室・光グミつくり教室・レゴでエネルギーを学ぼう～
13	大阪教育大学附属幼稚園	親子で幼稚園整備と清掃活動(全3回)
14	福岡教育大学附属幼稚園	課外活動「餅つき大会と思い出作り」「さつまいも栽培とさつまいもスタンプカード配布」
15	熊本大学教育学部附属中学校	生徒とPTAによる土曜・放課後活動
16	福島大学附属幼稚園	「ピザ窯作り」「和太鼓体験」
17	上越教育大学附属中学校	学年親子活動
18	鳴門教育大学附属幼稚園	ちからいっぱい夏期保育

## カンガルーシップ活動助成金事業

校種を越えて、子ども・教師・保護者が連携を持ち、障がいに対する「理解」を基盤とし「共生」を育む活動です。

助成金には「理解プロジェクト活動助成金」「共生プロジェクト活動助成金」「就労支援のための活動助成金」、発達障害、学習障害への理解を推進する「ネイバーサポート活動助成金」を実施しております。

カンガルーシップ活動(理解プロジェクト)		
NO.	学校名	活動名
1	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	学習発表会
2	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	学校祭
3	宮城教育大学附属特別支援学校	ふとくまつり
4	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	親父の会主催「七夕竹飾りと親子レクリエーション」～第47回大宮日進七夕まつりへの出展・参加～
5	山梨大学教育学部附属特別支援学校	きりの子マルシェ・きりの子バザール
6	筑波大学附属大塚特別支援学校	出張カフェ part2！～出張カフェで筑波大学茗荷谷キャンパスの皆さん、老人ホームの方々、地域の皆さんにサービスしよう～

カンガルーシップ活動(共生プロジェクト)		
NO.	学校名	活動名
1	愛媛大学附属高等学校	「みかんの家」交流作業
2	愛知教育大学附属特別支援学校	サツマイモのつるさし・収穫祭
3	香川大学教育学部附属坂出小学校	「きつとできる木工教室」「親子カヌー教室」
4	高知大学教育学部附属中学校	第29回 附属まつり
5	宮城教育大学附属幼稚園	宮城教育大学附属特別支援学校訪問
6	宮城教育大学附属幼稚園	宮城教育大学附属特別支援学校生徒と幼稚園児との交流
7	京都教育大学附属幼稚園	5歳児 親子園外保育
8	大阪教育大学附属幼稚園	1) 畑の草取り、畝作り 2) サツマイモの苗付け 3) タベのつどい 4) ふようバザー 5) PTAクラブ発表会および学校見学 6) 焼き芋大会 7) すもう会
9	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	交流及び共同学習、バザーへの出店
10	富山大学人間発達科学部附属幼稚園	七夕コンサート
11	山形大学附属幼稚園	もっともっとなかよくなろう！(交流活動・バザー参加&メンテナンス)
12	筑波大学附属駒場中学校	児童・生徒の交流会及びインクルーシブ・ワークショップ

カンガルーシップ活動(就労支援プロジェクト)		
NO.	学校名	活動名
1	愛知教育大学附属特別支援学校	進路に関する学習会
2	金沢大学人間社会学域学校教育学部附属特別支援学校	我が子の、卒業後の「しごとと暮らし」を考える(計4回)
3	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	進路に関する保護者学習会・職場懇談会・職場見学会
4	福井大学教育学部附属特別支援学校	①子育て支援学習会 ②事業所見学会 ③夏季休業中の体験実習 ④福祉制度学習会
5	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	進路に関する勉強会(①進路研修視察 ②夏の講演会)
6	岡山大学教育学部附属特別支援学校	①研修旅行(事業所見学) ②進路を考える会 ③事業所ファイルの作成
7	大阪教育大学附属特別支援学校	①PTA研修会 ②PTA進路研修会 ③PTA施設見学会(春) ④PTA施設見学会(冬)⑤夏休み体験実習 ⑥PTAふようバザー
8	筑波大学附属大塚特別支援学校	①進路に関する学習会 リゾートトラスト(株)北沢 健様 ②事業所見学会 WUサービス

カンガルーシップ活動(ネイバーサポートプロジェクト)		
NO.	学校名	活動名
1	愛知教育大学附属特別支援学校	特別支援教育公開セミナー
2	香川大学教育学部附属坂出小学校	講演「発達障がいを理解して」(PTA家庭教育学級)
3	岐阜大学教育学部附属小学校	教養委員会と合同開催の濱島秀行氏の特別講演とミニコンサート

上記各助成金の詳細については7月上旬に各附属学校園へ郵送にてご案内させていただいておりますので、ご確認下さい。

# 全国国立大学附属学校 教育後援会連絡協議会総会

## 報告



### あいサポート運動

### つなげよう、やさしさのカタチ 広げよう、あいサポートの輪

鳥取県で始まったこの運動は、障がいの有無に関わらず、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指したものです。障がいの事をよく知り、障がいのある方にちよつとした手助けを実践する運動です。全附P連は鳥取県知事と連携協定を結び、この普及に向けた活動を推進しています。

今年度はあいサポートの養成モデル校を募っています。児童・生徒たちがあいサポートになり地域や社会で困っている人たちにちよつとした手助けを行い共生社会に向けて一人一人が貢献できるようにサポートします。平成29年に、和歌山大学教育学部附属中学校から生徒向けあいサポート研修の研究が始まり、平成31年には福島大学附属中学校で、募集に先駆けて1年生・3年生の生徒、教員、保護者の420名にあいサポート研修を行いました。

また、保護者、教職員、地域の方向けのあいサポート研修も引き続き募集をしています。たくさんのご応募お待ちしております。(増田 梓)

令和元年度の全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会の総会が6月1日埼玉大学にて開催されました。一昨年の10月の全国大会にて設立された大会ですが、昨年の総会において私が理事長を拝命してから早や一年が経ちました。寄付金募集活動のレベルの向上、問題点の解決、改善を目指し教育後援会のガイドブックの発行など啓蒙を推進してまいりました。今年度も引き続き会員の皆さまのお手伝いができるような後援会であることを目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

理事長 小出克元

**国立大学附属学校がわかる!ムック本! 好評発売中!**

**国立大学附属学校のすべて**  
**国立大学附属学校の先進教育**

「国立大学附属学校のすべて」 ISBN 13: 978 4924508255  
「国立大学附属学校の先進教育」 ISBN 13: 978 4924508262

**全附P連PTA研修会 第10回全国大会** **日程** 10月4日(金)～5日(土) **場所** ハイアットリージェンシー東京

子どもたちとこの国の未来のために～今、附属がめざす「共生」～をスローガンに、第10回全国大会を開催します。一昨年、国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議の報告書が公表され、公私立とは異なる国立大学附属学校としての存在意義・役割・特色の明確化が求められています。国立大学附属学校として、地域に根付いた「共生」が求められている今、この大会で共に学び、情報を交換し、この国の未来について考察します。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。また、次号の「附属だより」で皆様に報告させていただきます。(谷田部秀男)

第1日		10月4日(金)	
9:30 10:30	臨時総会 60分 オプションプログラム 教育後援会基本セミナー あいサポート研修 90分	12:00 開会(13:00)	13:55 14:20
受付	昼食	開会式典 55分	休憩
		附属セミナー 基調講演 90分	休憩
		特別分科会 テーマ別分科会 1～5 100分	休憩
		情報交換会 120分	
(パネル展示) 絵画・作文コンクール入賞作品・特支記念品展示			
第2日		10月5日(土)	
8:30 9:00	10:30 10:50	12:45 閉会	13:00
受付	本講演1 90分	クロージングセミナー 本講演2 教育シンポジウム 115分	14:30
	休憩	オプションプログラム 幼稚園、特別支援学校等対象 ランチミーティング 90分	展示終了
(パネル展示) 絵画・作文コンクール入賞作品・特支記念品展示			

第九回全国大会の様子

**発行所**

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校PTA連合会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門  
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F  
全附連事務局  
TEL:03-3591-2091  
FAX:03-3591-2092  
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org  
印刷:株式会社インテックス

**編集後記**

令和元年6月1日。この日は爽やかな春風が流れる中、埼玉大学に於いて全附P連の総会が開かれ、新体制のスタートを切りました。この日は、今年度の活動の振り返り、来年の活動の展望、そして、全国の国立大学附属学校園やPTA、大学、関係省庁の方々、関係諸団体の皆様からのご参加、ご協力、ご支援に感謝の気持ちを込めて、この「附属だより」を出版いたします。

新元号「令和」が始まった今年度、これまで以上に「共生」の理念を胸に、これまでも培った経験や仲間を大切に、進んでいかなければならない。これまで進んで来た道を振り返り、改めて先人が築いてくれた日本の教育の基礎や思いを大切にしながら、そして本当に子どもたちに大切なこと、また地域や社会に求められていること、また地域と理解し、全国のさまざまな取り組みや情報を全国の地域や社会に正確かつ迅速に活動していかなくてはならない。「一歩」の改革と「周知」の広報活動の重要性を感じて、今、この情報化社会の中、平成から令和に時代は変わっていき、大切なことと求められていることをしっかりと見極めながら、子どもたちの笑顔とこの国の未来のため、さらなる充実と発展を目指した広報活動を展開していかなくてはならないとあらためて感じました。(中村裕治)

**編集委員**  
委員長 原田信一 (京都教育・山田哲弘 (東京教育・千葉一雄 (東京教育・石川武 (信州・高木勝和 (静岡・平賀博之 (静岡・矢野晴一 (福岡)

**全附P連**  
担当副会長 北島一人 (鳴門教育中  
委員長 中村裕治 (茨城中  
副委員長 高橋望 (北海道教育中  
三谷聖一 (佐賀小  
筑波高

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

**2019年度 中途加入受付中** **カンガルー保険のご案内** **ただ今募集中!**

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険	任意加入制度	24時間補償	全員加入制度
<p><b>任意加入制度</b></p> <p>24時間補償</p> <p>保険期間 2019年4月1日午後4時から2020年4月1日午後4時まで1年間 ※臨時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2020年4月1日午後4時に終了します。) ※ご加入ご希望の方は、取扱代理店までお問い合わせください。</p> <p>加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)</p> <p>加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。</p> <p>申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)</p> <p>※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。</p>	<p><b>約50%割引</b></p> <p>全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割安です。 ・団体割引: 30%・職業による割引: 25% ・大口団体割引: 10%優待</p>	<p><b>24時間補償</b></p> <p>お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。</p>	<p><b>全員加入制度</b> ※個人での加入はできません。</p> <p>1 園児・児童・生徒、教職員の皆様のケガなどを補償する <b>園児・児童・生徒・教職員総合補償制度</b> (学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)</p> <p>2 園児・児童・生徒、教職員の皆様が犯罪事故からお守りする <b>犯罪被害事故見舞補償制度</b> (傷害総合保険)</p> <p>3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する <b>PTA活動総合補償制度</b> (普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)</p> <p>保険期間 2019年6月1日午後4時から2020年6月1日午後4時まで ※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン日本興亜株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のベストネームです。 ※この広告は概要を説明したものであります。詳細はパンフレットをご覧ください。取扱代理店または損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。</p>

〔引受保険会社〕 東京海上日動火災保険株式会社  
(担当課)公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2019年3月作成 18-TC05232

〔引受保険会社〕 損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-9588 FAX:03-6388-0162 SJNK19-00016 2019年4月1日

**カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先**

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》  
**株式会社 第一成和事務所**  
東京都中央区日本橋久松町11-6 0120-100-492  
日本橋TSビル 8F

《東海・近畿・中国・九州地区》  
**海上商事 株式会社**  
東京都渋谷区代々木2-11-15 0120-745-748  
新宿東京海上日動ビルディング